

アセトアミノフェン錠200mg「JG」の溶出試験に関する資料

長生堂製薬株式会社

試験製剤『アセトアミノフェン錠200mg「JG」』（長生堂製薬株式会社 製造販売）と標準製剤『コロナール錠200』の溶出挙動の同等性を評価するため、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従って溶出試験を行った結果は、以下のとおりであった。

## 1. 試験条件

試験法	回転数	試験液
パドル法	50rpm	pH1.2
		pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液
		pH6.8
		水
	100rpm	pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液

## 2. 溶出試験結果

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に定められている判定基準（別紙参照）に基づき、以下のとおり判定を行った。

### 2-1 パドル法、50rpm

試験液 pH1.2、pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液、pH6.8、水の場合

標準製剤の溶出に明確なラグ時間は認められず、標準製剤は溶出試験開始後15分以内に平均85%以上溶出した。よって、判定基準は、別紙に示す判定基準の①に該当し、試験製剤の溶出試験結果はこれを満たしていたことから、試験液（pH1.2、pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液、pH6.8、水）において、両製剤の溶出挙動は同等であると判断された。

### 2-2 パドル法、100rpm

試験液 pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液の場合

標準製剤の溶出に明確なラグ時間は認められず、標準製剤は溶出試験開始後15分以内に平均85%以上溶出した。よって、判定基準は、別紙に示す判定基準の①に該当し、試験製剤の溶出試験結果はこれを満たしていたことから、試験液pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液において、両製剤の溶出挙動は同等であると判断された。

## 3. 各試験液における溶出試験結果グラフ

試験製剤及び標準製剤の溶出挙動を図1～5に示す。

図1 パドル法(50rpm)試験液「pH1.2」における試験製剤及び標準製剤の溶出挙動

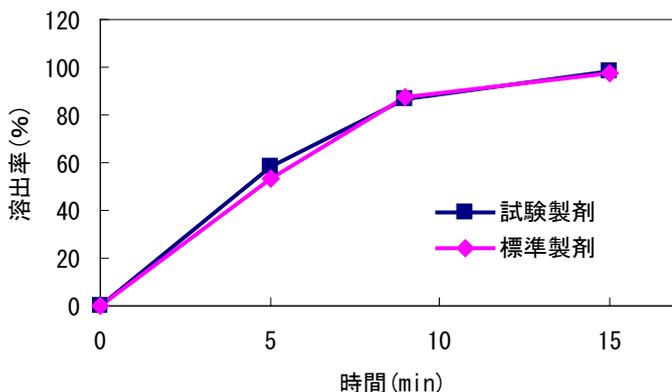


図2 パドル法(50rpm)試験液「pH5.0の薄めたMcIlvaineの緩衝液」における試験製剤及び標準製剤の溶出挙動

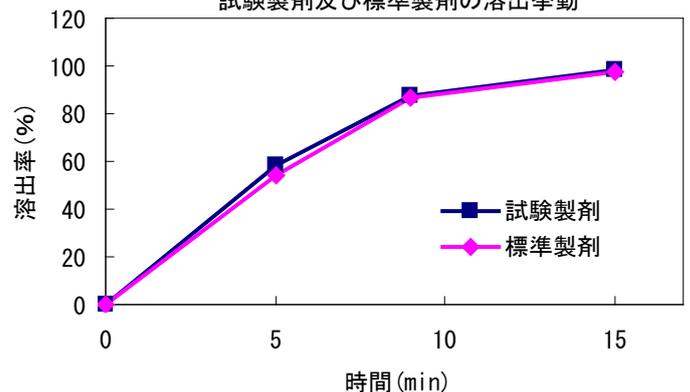


図3 パドル法(50rpm)試験液「pH6.8」における試験製剤及び標準製剤の溶出挙動

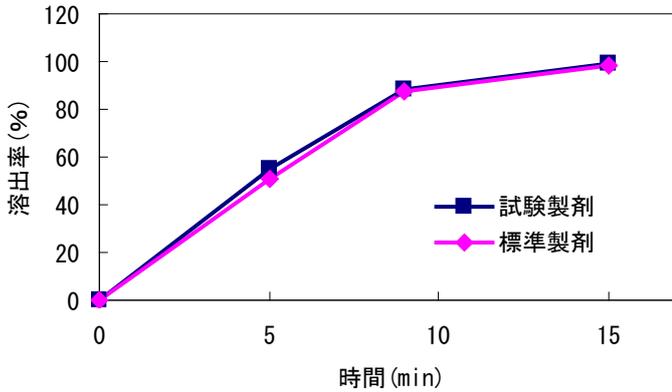


図4 パドル法(50rpm)試験液「水」における試験製剤及び標準製剤の溶出挙動

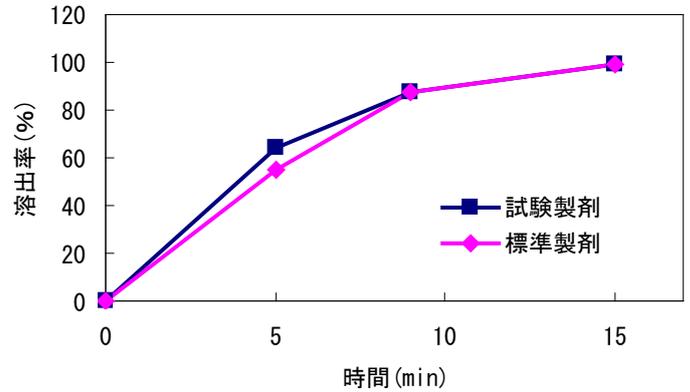
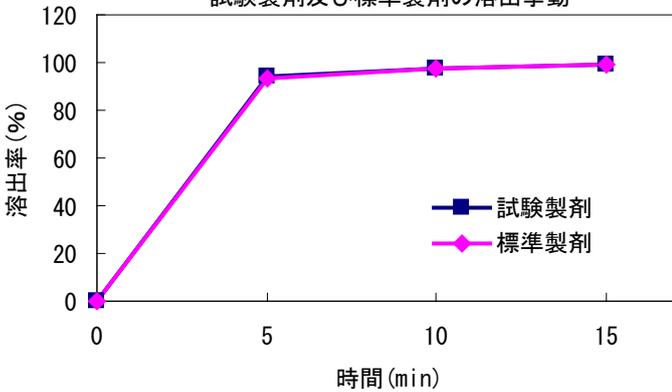


図5 パドル法(100rpm)試験液「pH5.0の薄めたMc Ilvaineの緩衝液」における試験製剤及び標準製剤の溶出挙動



試験製剤『アセトアミノフェン錠200mg「JG」』と標準製剤『カロナール錠200』について「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に則った試験を実施し、両製剤の溶出挙動の同等性評価を行った結果、すべての条件において両製剤の溶出挙動は同等であった。

また、本剤は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたアセトアミノフェン200mg錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

## 溶出挙動の同等性の判定基準

## ○標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間以内に85%に達する場合

標準製剤の溶出に明確なラグ時間がない場合	
①	<p>【標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合】</p> <p>試験製剤は15分以内に平均85%以上溶出する。又は、標準製剤の平均溶出率が85%付近の適当な時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>
②	<p>【標準製剤が15分～30分に平均85%以上溶出する場合】</p> <p>標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>
③	<p>【①、②以外の場合】</p> <p>標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>
標準製剤の溶出にラグ時間がある場合	
④	<p>【溶出ラグ時間以降15分以内に標準製剤が平均85%以上溶出する場合】</p> <p>平均溶出ラグ時間の差が10分以内である。また、溶出ラグ時間以降試験製剤は15分以内に平均85%以上溶出するか、又は、標準製剤の平均溶出率が85%付近の適当な時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>
⑤	<p>【溶出ラグ時間以降15分～30分に標準製剤が平均85%以上溶出する場合】</p> <p>平均溶出ラグ時間の差が10分以内であり、且つ、標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>
⑥	<p>【④、⑤以外の場合】</p> <p>標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm 15\%</math>の範囲にある。</p>

## ○標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間以内に85%に達しない場合

⑦	<p>標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び、規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率<math>\pm a\%</math>の範囲にある。aは、溶出率が50%以上の場合には「15」、50%未満の場合には「8」とする。</p>
---	---